

令和5年度岩手県林業技術センター機関評価及び試験研究評価実施結果

1 目的

(1) 効率的な業務運営を図るため、機関評価を実施する。

組織、運営、研究開発、人材育成などの面から評価を行い、当センターの使命・役割の遂行状況を検証し、試験研究機関の機能強化、効率的な業務運営の推進を図る。

(2) 試験研究の効果的・効率的な推進を図るため試験研究評価を実施する。

試験研究課題の選定から試験研究終了後の成果の普及に至るプロセスに関し、適切な評価を実施することにより、効果的・効率的な試験研究の推進を図る。

(3) 機関評価等の客観性・透明性を確保するため、県の組織に属さない外部有識者等を評価員とする外部評価を実施する。

2 機関評価及び外部評価協議会の開催日時等

(1) 日時 令和5年12月20日(水) 13:15~17:00

(2) 場所 岩手県林業技術センター 大講義室

3 評価員

岩手県林業技術センター所長が選任する。

所 属 等	氏 名
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所長	山中 高史
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場長	三重野 信
岩手県立大学 研究・地域連携本部 地域連携コーディネーター	渋谷 晃太郎
ノースジャパン素材流通協同組合	鈴木 信哉
奥州地方森林組合代表理事組合長	小原 剛一郎

4 機関評価結果

評 価 項 目	評 価 視 点	評 価	主 な 意 見 等
機関の運営方針・研究推進計画に関する こと	県の政策・施策と業務運営 方針の整合性 県の政策・施策と研究推進 計画の整合性 研究推進計画への県民、企 業等のニーズの反映状況	妥当：4 やや妥当：1 一部見直し：0 大幅見直し：0	・県の政策に整合しており妥当と認められる。 ・基本方向と研究課題の並びを見ると研究課題に1項目しかない研究課題がある。
組織体制に関する こと	業務全般に対するマネジメ ントの実施状況	妥当：5 やや妥当：0 一部見直し：0 大幅見直し：0	・野生動物被害や気候変動対応等の森林・林業に関して取り組むべき課題は多くあり、これ以上の定員削減は問題である。
人員の配置及び研究 員の育成に関する こと	人員配置の状況 研究者の育成方策	妥当：0 やや妥当：4 一部見直し：1 大幅見直し：0	・研究者は不足している。研究者の研究分野により、研究課題への対応に偏りが出ないようにはしていただきたい。 ・森林や林業の課題は長期間にわたり取り組むべきものであり、個人でなく組織で対応するよう人員の配置を考えるとともに、研究員育成は組織が責任をもって進めること。 ・被害発生状況などの恒常的な調査を行いつ

			<p>つ、個人の研究も行うとなるとマンパワー的に不足感を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・55歳以上に年齢が偏っている。
予算の配分と研究施設・設備に関すること	業務内容に関する経常的経費の状況 研究に必要な施設・設備の確保	<p>妥当：1 やや妥当：3 一部見直し：1 大幅見直し：0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな課題、温暖化、気候変動、生物多様性などを実施する必要がある、そのための人員、研究費が必要になる。 ・必要な人員を適正に配置するための人件費を確保するとともに、今後施設の老朽化に伴う修繕費を確保するなどして、技術開発の取り組みに支障をきたさぬようにすること。 ・技術センターの広大さを考えると施設整備や庁舎改修費がやや少なく感じる。毎年のメンテナンスを先延ばしにすると後年多額の経費が必要になる恐れがある。 ・国の試験機関は、油代、電気代高騰で研究に支障がでている。エネルギー源を再生エネルギー化の取り組みが必要。
大学・企業等との連携、外部資金の導入、受託研究への対応に関すること	大学・企業等との効果的な連携の実施 積極的な競争資金への応募 受託研究への対応	<p>妥当：2 やや妥当：3 一部見直し：0 大幅見直し：0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな分野、温暖化や生物多様性などで外部資金が増やせるのではないかと。 ・地域からの要望に応じて適切に対応しているが、大学との連携も今後取り組んで頂きたい。 ・地元の公的研究機関として、地域的、実用的な調査研究のウエイトが大きくなってしまいが、地域のニーズに即した受託研究等をより一層進めて頂きたい。
研究開発に関すること	研究課題へのマネジメントの実施状況	<p>妥当：2 やや妥当：3 一部見直し：0 大幅見直し：0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価については、そのための研究とならないよう研究者の負担を少なくすること。 ・県内各種団体の今必要な要望事項を幅広くヒアリングすることが必要。
研究成果の活用に関すること	研究成果の実用化、事業化の実施状況 研究成果の普及状況 研究成果の知的財産権化、活用の的確性	<p>妥当：1 やや妥当：3 一部見直し：1 大幅見直し：0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知財化された成果は近年見受けられないが、この部分を強化するのかどうかの検討が必要である。 ・研究成果のうち、地域の関連産業の振興に関わるものは、知財化を検討して現場に普及しやすくする必要がある。 ・研究成果の普及については、関連事業者に幅広く普及する必要がある。
業務の情報発信に関すること	情報発信状況 (対象、内容、方法)	<p>妥当：3 やや妥当：2 一部見直し：0 大幅見直し：0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成果の情報発信については、様々な手段を用いている。 ・今後は、成果がどのように現場で実際に活用されているのかについても調査することで情報発信の手法を検討することも必要。
総括的事項	機関設立の意義・目的と業務内容の整合性	<p>妥当：3 やや妥当：2 一部見直し：0 大幅見直し：0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県の森林・林業、木材産業、特用林産に関わるニーズに対応する研究機関としての意義や県の施策に基づく目的と業務内容との整合性を認める。 ・ここ数年の定員数は変わらないが、設立当時と比べて大きく減少しており、現在の数がギリギリのラインであるかと推察される。これ以上の定員や予算の削減は、当該分野での地域ニーズに応える研究機関の存在を危うくするものである。 ・豊かな森林を活用する取り組みは、岩手県の地域振興の中心をなすものであり、そのための必要な予算や定員の確保（できれば増加）は最重要である。

		・各種制約がある中で、行える以上の業務を行っていると思われる。
そ の 他		・限られた予算と人員の中、適正な取組

5 研究課題に対する評価結果

【継続課題及び終了課題】

課 題 名		評 価 (継続課題※1)	主 な 意 見 等
マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発	終了	完 了 : 3 継 続 延 期 : 1 新 規 課 題 化 : 1	<ul style="list-style-type: none"> 研究としては確立されているのでは。今後は研究成果を生かし種子、種苗生産に注力する必要がある。 多くの抵抗性品種も選別できており目的は十分に達成できている。 今後、事業の中で現場普及に取り組み、新たなニーズが発生した場合に再度課題化して取り組むべきである。
広葉樹被害の把握と防除技術の開発	終了	完 了 : 2 継 続 延 期 : 3 新 規 課 題 化 : 0	<ul style="list-style-type: none"> ナラ枯れは、沿岸から内陸に進む可能性もあることから、早期発見と現場でのこすとのかからない防除技術の開発、実証が必要。
アカマツ伐採跡地における菌根性きのこ早期発生技術の開発	継続	A : 4 B : 1 C : 0 D : 0	<ul style="list-style-type: none"> 計画どおり実施し、その成果を見た上で延長もしくは終了を決める必要がある。 菌糸の確認をPCRで行なうだけでなく、現場で確認できる方策を検討していただきたい。

※1 評価 A : 十分な成果が期待、優先的に取り組む必要
B : 一定の成果が期待、継続して取り組む
C : 見通しに問題、計画再考
D : 中止

【事前課題】

課 題 名		評 価 (※2)	主 な 意 見 等
寒冷地・高標高地に対応した松くい虫被害拡大防止技術の開発	事前	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0	<ul style="list-style-type: none"> ドローン調査については、可視光以外のバンドでも調べてみてはどうか。 高寒冷、高冷地とあるが、温暖化によって気温が上がっていることもひとつの原因ではないか。
外的要因の変化に対応するシイタケ栽培技術の開発	事前	A : 4 B : 1 C : 0 D : 0	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動への適応策と考えた方がよいのでは。 今後進めていくうえで、使う側の立場に立った検討も必要
効率的な広葉樹材乾燥技術の開発	事前	A : 4 B : 1 C : 0 D : 0	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究等について幅広く調査してほしい。 業界等の事前調査を十分に行なう必要がある。

※2 評価 A : 提案内容で実施
B : 一部見直しの上実施
C : 計画再考
D : 不実施